

令和3年度 機材利用レポート！

▼令和3年度（2月11日集計時点）の発明ラボのデジタル機材利用状況をご報告します。毎週金・土曜日に機材利用日として一般開放している発明ラボ。コロナの影響もあり、例年よりも開館日が限られましたが、のべ400名以上の方にご来館いただきました。機材を利用した方の内、約6割が佐川町内にお住まいの方でした。町外からの利用者も、近隣の越知町・日高村

や高知市内の方ももちろん、愛媛県や岡山県からお越しいただいた方もおられました。

次に、今年度に最も利用された機材はレーザーカッターで、のべ140名以上の方にご利用いただきました。二番目に多く利用された機材はUVプリンターでした。機材の扱いをスタッフがサポートする「ものづくり相談」や「データーづくりサポート」も、ほぼ毎月ご利用いただきました。

人気機材 トップ2！

レーザーカッター

レーザー光によって素材をカット、彫刻する。製品への彫刻やプロトタイプ制作、看板制作など用途は幅広い！



UV プリンター

素材の表面に UV 硬化インクでフルカラー印刷する。フルカラーインクのほか・クリアの特殊インクが使用可能。

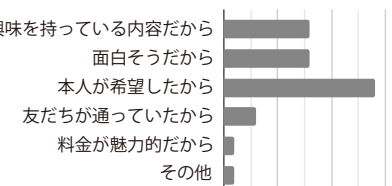


来年度も引き続き、皆さんのものづくりのサポートができるようにスタッフ一同努めて参ります！

参加者アンケート

▶ アンケートの結果、すべての方にプログラムをご満足いただけました。お家で自分で考えてものづくりをするようになったり、時間を見て行動できるようになったり、他校の友達が増えたりなどポジティブなお声を多数いただいています。

●通っている理由



▼放課後発明クラブは、佐川町内に在学している子どもたちを対象に開催しているものづくり教室です。水・木曜日の2コースあり、月4回づつ約10ヶ月にわたり開講しました。今年度は小学1年生と小学4年生、計24名が参加しています。また初めての試みとして、高学年以上を対象にした放課後発明クラブプラスを実施。プログラミングを学んだり、植物について探求したり、3Dプリンターを活用する少し高度な発明クラブを開催しました。

ものづくりを通して新たな発想や創造を体験し、協働することで豊かなココロを育んでもらえたらと思っています。

放課後発明クラブ通信

青山文庫だより

展示の種類を「ご存じですか？

現在、春の展示替に向けて準備をしています。例年であれば、春の企画展を1つ、小展示を2つ同時開催していますが、今回は企画展2つを同時開催します。

「企画展と小展示ってどうちがうの？」と疑問に思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、実は博物館には展示の規模や目的によつて、展示をいくつかの種類に分けて展示名に冠しています。

どの種類も大まかには文字どおりで、常設展は「常設している展示」、特別展は「特別な展示」、企画展は「企画した展示」、小展示は「小さな展示」を指します。

ちなみに、この区別も、博物館によって少し違いますので、ここでは「青山文庫の学芸員が考える区別」としておきましょう。どういう事かと言うと、青山文庫が開催している企画展「志士たちの遺墨」や、小展示「江戸時代の佐川」、小展示「佐川ゆかりの人びと」などは、大きなテーマは共通していて、各展示ごとに小テーマを違えて展示を構成しています。時には季節感を反映させる事もあります。この小さな差についてはこだわらず、

これらを全て常設展とする博物館もあるので。大きな博物館にはこの傾向が強いのではないかと思います。

私が青山文庫に着任した時、青山文庫の展示は常設展とされていました。では、どうしてわざわざ展示の種類名を変えたのでしょうか？実は、博物館ではよく聞く話なのですが、常設展として、「いつも同じ物を展示している」という印象を抱かれがちになってしまうのです。私はこの小さな誤解を避けたくて、実験的に常設展を使わないようにして約10年が経とうとしています。この実験で、どれだけの効果が得られたのかは不明ですが、最初の頃より来館者は増えています。今回は、学芸員のちょっとしたこだわりを紹介しました。春の展示については次回詳しくご紹介いたします。（青山文庫 藤田有紀）

〈展示案内〉

○春の企画展 3月12日（土）～6月5日（日）

①「青山文庫の収蔵品あれこれ

～皇室関係資料～

②「志士たちの遺墨」

〈お知らせ〉

展示替作業のため

3月8日（火）から11日（金）は

臨時休館します。

文 芸

川 柳

冬の庭 山茶花だけが 赤く萌え
 嫌味など 言つて本音を 誘い出し
 思い出が 脳裏に浮かぶ 独り言
 和田 憲一

人の世の ドラマに飢えて 老い過ぐる
 東 聖（ペンネーム）

俳 句

大空へ 届けとばかり 凧あげる
 味元 佐知子

孤独忘失 身を遣りて 時の中
 東 聖（ペンネーム）

短 歌

白い法衣に墨を垂らしし 餓鬼どもを
 怒りもせずに因果が裁く
 東 聖（ペンネーム）

面影のかけらも見えぬ我が母校
 障子の頃をなつかしみおり
 堀見 美和

塵出しも苦になり初めて距離思う
 門から四百庭から五百歩
 永田 エミ

川柳・俳句・短歌を広報さかわに掲載してみませんか？

※5月号への掲載を希望される方は4月1日（金）まで

投稿方法：氏名・住所・電話番号と、川柳・俳句・短歌のいずれの部門かをご記入のうえ封書やはがき、ファックスにてお送りください。応募多数の場合は抽選により掲載します。